

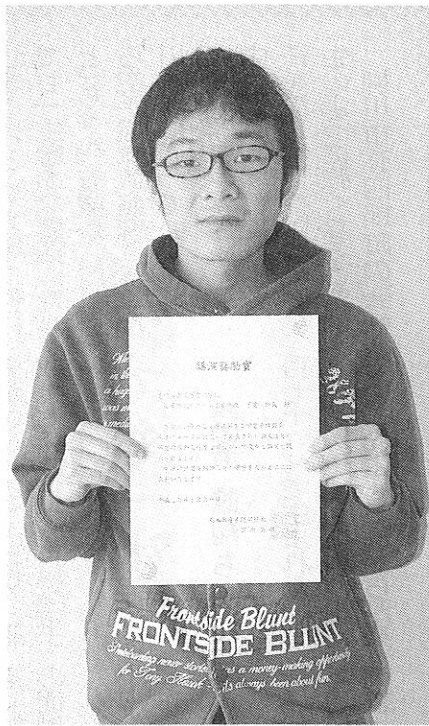
SPR現象の研究評価

有明 高専 甲斐さんに講演奨励賞

大牟田

大牟田市東萩尾町の有明工業高等専門学校(福島健郎校長)専攻科二年、甲斐郁矢さん(21)は第十一回電子情報系高専フオーラムで講演奨励賞を受賞。「表面プラズモン共鳴(SPR)現象」をテーマにした研究が評価された。

SPR現象とは金属中の電子が光と相互作用を起すもの。その特性を利用したセンサーはタンパク質やDNAの測定など、医学や環境計測の領域で広く活用されており、国内外の多くの学者が研究に取り組んでいる。甲斐さんは電子情報工学科の内海通弘教授に指導を受け、「表面プラズモン共鳴現象理解のための数値計算」と題して論文を執筆。SPR現象の特性を用いた液体の濃度測定の実験で、正確な結果を得るための数値シミュレーションを行った。昨年十一月、九州各地の高専から三十八人が講演した熊本高専熊本キャンパスであったフオーラム(同高専主催)に参加。今年一月に受賞者が発表され、三月末に表彰状と副賞が送られた。



表彰状を手にする甲斐さん

講演奨励賞は特に優秀な発表者に贈られるもので例年、二人ほどが受賞。「一番良い実験システムをつくるためにはどうしたら良いのかを考え、数値に着目しました。講演ではうまく研究内容を伝えることができなかったと思っていたので、受賞にはびっくりしました」と甲斐さんは話している。(河野 美緒)